

早く女房を貰はないと

私の女房になりてが多くて

困るようになるから

此んな風な詩を、まだまだ澤山、宿に歸つてから、一時間ばかりの間に書きなぐつた。

夕めしを食つて、風呂場へ降りると宿のお婆さんが、暗い所で観音經をあげてゐた。

支那人の行商が、階下の中に四五人とまつてゐた。

翌朝目が覺めて障子をあけると、畑が見えて、山の根の無想庵の家の近所丈が見える。

前には手欄があつて、松林を際して青い海が少し見える。

僕は騰寫版刷の詩集を一冊持つて居た。

其の表紙に此んな意味の事を書いた。

——あなたは私を我慢のならない男の様に思はれるかも知れないが、あなたのお父さんに似てゐると思つて我慢して下さい。無想庵やあなたの両親や其の他の人も、僕の戀を本氣にはしないで